



効果が見られる防鹿柵

三年前の秋、静岡県の南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークという団体の活動を知り、「これは是非とも協力しなくては」と思い、

南アルプス高山植物保護ボランティアの参加レポート 原 一樹

南アルプスでのボランティア活動を続けてきました。

ニホンジカの爆発的な増加要因の一つに地球温暖化があります。弱い個体でも越冬できるようになったということです。

お花畑が次々とシカに襲われ、至るところが見るも無残な「牧場状態」となり、ひどいところは植物が失われ、裸地化して表土の流失が見られるところさえあります。

今年度の活動の様子をレポートします。

【三伏峠のお花畑】
数年前からニホンジカの採食圧の影響から芝生状になりました。十九、



塩見岳でのヤシネット設置

「塩見岳東峰山頂直下」
かつて、ここはハクササイチゲやシナノキンバイが咲き乱れるお花畑と

長野県地球温暖化防止活動推進センターが主催する「さわやか信州エコグランプリ2009」で飯伊地域から、優秀賞

「長野県知事賞」に「南信州レジ袋削減推進協議会」、努力賞に「百万人のキャンドルナイトin南信州実行委員会」の二団体が選ばれ、去る十二月五日に長野市内で開かれ

た「地球温暖化防止フォーラム2009in長野」において表彰された。「南信州レジ袋削減推進協議会」では、事業者、消費者団体、行政の三者が一体となり、レジ袋辞退率を80%以上とする目標を掲げ、県内でも先進的な取組を行っている。また、「百万人のキャンドルナイトin南信州実行委員会」では、六月六日、飯田市のりんご並木をメイン会場に、竹宵を使ったライトダウンを実施、CO2削減の気運を高めた。

南アルプスの高山植物をニホンジカの食害から守れ!

去る九月十二日〜十四日、南アルプスの三伏峠・塩見岳で、ニホンジカの食害から高山植物を守るため、静岡県の南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークが主催する保護活動が行われた。

長野県側からも十名が参加し、防鹿柵の修繕や土砂流出防止ネットの敷設に汗を流した。

今回は、この活動に参加された原さんから、活動の様子をレポートしていただいた。



三伏峠でのヤシネット設置

二十年度の防鹿柵設置作業には、南信州からも多くの方が参加しました。今年はその防鹿柵の維持修繕を行いました。うれしいことに、柵の効果で植生回復の兆しを確認することができました。

このボランティアは息の長い活動になります。関心のある方は、来年是非一緒に参加しましょう。御連絡をお待ちしています。



リレーメッセージ

今年もアカウミガメの赤ちゃんに逢ってきました。遠州灘アカウミガメ放流ツアー、特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議

去る九月十二日、私どもで企画する「遠州灘アカウミガメ放流ツアー」に、岡谷、上伊那、下伊那郡地区の子供たち八十余名で行ってきました。

この企画は、天竜川の上流に住まう子供たちが天竜川の河口遠州灘を訪れ、「天竜川の下流部では今、何が起きているのか」「産卵に来るアカ

ウミガメのお母さん達の危険」さらに「産卵場所になつている砂浜の海岸侵食」「小さな動物達の営みに危険を与えてしまった人間の生活」、ついには「自分たち自身の生活圏を脅かすこととなった海岸侵食の事実」を見聞き、下流に暮らし活動を続けている人々との交流を通して、天竜川上流部に住まうものの態度と行動を模索することを目的として、静岡県磐田市と国土交通省浜松河川国道事務所や地元市民団体の皆さんの協力で、毎年実施しているものです。

今年の子供たちも、天竜川河口の見学、河川による土砂の運搬や海岸浸食の勉強会、レ

環境保全について、自分たち一人一人ができることから積極的に取り組む大切さを理解してくれたものと確信しています。

この企画は、来年も実施する予定です。ぜひ一度、私達と遠州灘に行ってみませんか。



長野県と信州豊かな環境づくり県民会議の共催による「環境保全に関するポスター・標語コンクール」の最終審査が、この度行われました。

県内応募総数三、六一四点(うち飯伊地域二〇七点)の中から、当地域で選出された作品のうち、小学生低学年の部・高学年の部、中学生の部、高校生の部で計六作品が入賞しました。

入賞作品については、今後一年間、様々な啓発活動に使われる予定です。

下伊那地方事務所においても、

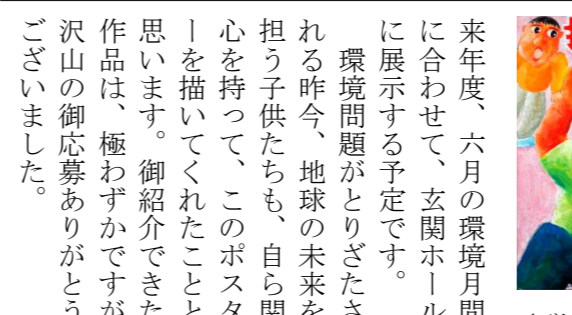
環境保全に関するポスター 飯伊地域会議から六作品が入賞

長野県と信州豊かな環境づくり県民会議の共催による「環境保全に関するポスター・標語コンクール」の最終審査が、この度行われました。

県内応募総数三、六一四点(うち飯伊地域二〇七点)の中から、当地域で選出された作品のうち、小学生低学年の部・高学年の部、中学生の部、高校生の部で計六作品が入賞しました。

入賞作品については、今後一年間、様々な啓発活動に使われる予定です。

下伊那地方事務所においても、



来年度、六月の環境月間に合わせて、玄関ホールに展示する予定です。

環境問題がとりざたされる昨今、地球の未来を担う子供たちも、自ら関心を持って、このポスターを描いてくれたことと思います。御紹介できた作品は、極わずかですが、沢山の御応募ありがとうございました。

我が家でも、つい一月ほど前に太陽光発電を導入しましたが、順調に発電を続けています。

また、リレーメッセージは、推進員等以外の方から寄稿していただきました。今後、環境に関する様々な取組をしている方たちの活動も紹介していくことができればよいのではと考えています。

境保全について、自分たち一人一人ができることから積極的に取り組む大切さを理解してくれたものと確信しています。

この企画は、来年も実施する予定です。ぜひ一度、私達と遠州灘に行ってみませんか。

入選作品 四点

中学生の部 優秀 竜峡中学校 2年 高見澤知花	高校生の部 優秀 飯田風越高等学校 2年 米山あきほ	小学生高学年の部 追手町小学校 4年 外松誠紀	小学生高学年の部 上郷小学校 4年 宮下のどか	小学生低学年の部 鼎小学校 3年 原菜々花
-------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------------------

第十号から編集担当が代わりました。まだまだ足りないところばかりだとは思いますが、今後頑張ってください。よろしくお願いします。

さて、第十号は、環境ウォッチャーと地球温暖化防止活動推進員の方から、偶然にも太陽光発電についての記事を寄稿いただきました。

それだけ太陽光発電に対する関心が高いことを示しているのではないかと思います。

太陽光発電のまち「城西の杜」を

環境ウオッチャー 松澤肇(飯田市) 見学して

シルバーウィークに群馬県太田市が開発した「城西の杜」という太陽光発電の団地を見る機会に恵まれました。国内最大規模の住宅団地(総戸数七七四、うち設置数五五〇)です。



初の個人住宅の集合発電システムを確立する重要な実験でした。個別の発電は三KW程度であるが、数百戸になると二〜三MWとなり、種々の問題が発生する恐れがありました。電力会社との「買電」「売電」がバラバラになることで技術的な問題が起きるからです。

五年の歳月を経て実験は終了しましたが、その間、新技術を開発してトラブルを未然に防止し、現在多くの市民が平穏快適に生活している様子を見聞きする事が

できました。甥が市の職員である事から現地を案内してもらい説明を聞き、写真も撮ることができました。細部については紙面上割愛しますが、報告の機会があればと思っています。今後、急速に普及する

であろうソーラー発電の設置に際しては、行政、電力会社、個人が共同体となつて共同の「メガワット級の住宅団地発電所」になり、クリーンエネルギー化が進むことを願うものです。技術的には解決していることが幸いです。

太陽エネルギーの魅力

地球温暖化防止活動推進員 小椋邦彦(高森町)

近い将来、発電所がなくなる時代が来る、という話を聞いた。それは、宇宙空間にロケットで太陽光パネルの部材を打ち上げ、宇宙で組み立て、太陽光を集熱し、レーザー光線で地上の基地へ送り、電気に変換して地球上で使う事が可能となるものだ。

力の大半を賄う事となり、CO2は限りなく削減可能となり、あらゆる面での効果が生れる、革命的現象である。

二〇三〇年には実用化が日本の技術で行われる。これは凄い事だが、確かに考えられる事だ。宇宙と地上で太陽光を集積できれば、地球上での電

私は、日頃の推進員としての活動の中で、無尽蔵の太陽光を利用する発電システムを大いに推奨している一人である。自身の仕事にも関係する事から、住宅の新築・リフォームの計画の折、家庭のエネルギーの相談には積極的に関与し、太陽光発電システムの利点を説いて導入を勧め、年間数十件の成果が挙げつ

ている。補助金制度の活用、売電単価の倍増等々、又導入のコストが年々下がっている上に、何と云っても省エネ、CO2削減に直結する点、導入への環境は整ってきた。私は今後第一に推進したい活動として考えている。



新たな地球環境創りを考えてみませんか?

不法投棄監視連絡員 小林睦(下條村)

私が日頃思っております事の一つに、安全で美しい地球創りを、全ての人が、常に意識して生活をしていけば、必ず素晴らしい地球環境に変える事は可能だと考えております。後戻りやリフォームではなく、全く新しい地球創りに、今こそ一歩踏み込む時だと思えます。高度経済成長、大量生産、大量消費、「消費は美德」という考えからはきっぱりと決別をし、チェンジしていきましょう。道は一人の人が歩き始める事から始まります。一人の人が歩いた後を

狙われる高山チョウ

自然保護レンジャー 前島正介(大鹿村)

長野県希少野生動植物保護条例は、平成十六年一月に施行された。平成十八年に同条例初の違反者がでたのは、高山チョウの捕獲の違反者であった。本年度もまた、中信地方において、高山チョウの捕獲者の摘発があった。大鹿村では、まだそのような違反者はでいていな

いが、数多くのチョウマニアによって高山チョウが捕獲されたり、貴重な植物が採集されたりしているのが現状である。本年度は、林道の落石によって犠牲者が出たため、急遽、落石防止工事が行なわれ、林道は通行止めとなり、生息しているクモマツマキチョウ、ミヤマシロチョウは守られた。



クモマツマキチョウ (長野県希少野生動植物保護条例 指定種)

また、林道付近は猛禽類のクマタカ、イヌワシの生息地であり、保護のため通行規制されているので、ゲートより奥へはと入れないが、マニアは自転車で乗り入れる始末である。

南アルプスはなんといつでも大きくて、深い。そこに生息する動植物を後世に末長く守り、残してやりたい。アメリカインディアン

にこのような言葉が残っているという。 Today's Birds, Tomorrows Men. (今日の鳥の姿は、明日の人間の姿である。)

タコノアシの増殖

希少野生動植物保護監視員 堤久(松川町)

一昨年、天竜川の河川敷でタコノアシを見つけた。

赤く熟し始めたタコノアシ



この多年草は、長野県でも環境省でも、絶滅危惧II類に指定されている希少種である。自生地が洪水や工事などで改変されてしまうことを危惧し、昨年の秋に種子を集め、今年の三月に小さなポットに苗を数個保管した。いわゆる保全のための「危険分散」を計ることにしたのである。案の定、四月に入り、

五月のゴールデンウィークの一日、天竜川総合学習館で、講座「タコノアシの増殖活動」を開いた。参加者は幼児から大人まで二十人ほどであったが、河川敷の安全な地に保管しておいた種子を蒔き、苗を植え付けた。その後、草取りをして生育を見守ってきたが、順調に育ち、夏には黄白色の花が咲き、秋には赤く実が熟した。「危険分散」での保全

「又一人の人が土を踏み固め、次の人がまた踏み固めていく事によって、道は創られるのです。」ゴミの山、一人の人間のポイ捨てから始まります。一つのポイ捨てを見て、次の人がその場所に捨て、また、次の人がそれを見て捨てるという事によって、大変なゴミの山が出来上がります。世間ではよくポイ捨てが多いとか、ゴミが大変だと言う話を聞きます。その時私は、「ではゴミを拾ったことがありますか?」と。残念ながら、「ありません。」とお聞きします。大人たちの姿はこんなものです。私は子供達に地球温暖化防止について、事務的な事ではなく、機会ある度に、実際に汗をかき行動を起こすことの大切さを教え、先人からいただいた大切な地球に感謝しながら、美しい水安全な土の上に立って幸せな生活を続けていきたいと考えています。また、子供達にもそのような生活をしたいと思っています。

は成功し、保全活動に対して講座という形をとることにより、希少植物に対する「啓蒙」という面でも多少なりとも効果があつたものと思われる。【タコノアシ】 高さは数十cmで、細長い葉がらせん状につき、九月頃小さい花を多数開く。これを上から見ると吸盤のついた蛸の足を下から見たのに似ていることから、タコノアシと名付けられた。